

成果検証報告書

【成果指標の達成状況】

成果検証実施年度 令和3年度

市町村名	桶川市					
提案事業名	市制施行50周年を契機とした持続可能なまちづくり事業					
事業期間	令和2年度		～	令和2年度		
成果指標	(成果を検証する指標) ◆市民1人、1日当たりのごみの排出量					
	(成果検証の具体的な方法) ◆環境センターに搬入されるごみの量から、市民1人1日当たりのごみ排出量を算出する。					
	(成果の目標値に対する実績)			達成度	C	
	従前値 (R2年4月時点)	716	目標値 (R3年4月時点)	698	実績値 (R3年4月時点)	738
	(施設建設等の場合の実績)					
	年間利用者数 (人)	(目標) (実績)		稼働率 (%)	(目標) (実績)	
住民への公表状況 及び特記事項						

【事業効果の整理・原因分析】

令和2年度 構成事業

構成事業名	事業効果	事業効果の概要及び原因分析
① 漫画まちづくり冊子作成事業	○	・漫画の要素を取り入れることで子供にも親しみやすい内容となった。SDGs（つくる責任 つかう責任など）についてふれ、多くの市民に持続可能なまちづくりについて必要性を伝えられた。
② 子ども達の願いを込めたノベルティグッズ作成事業	○	・ノベルティグッズには、子ども達が未来への願いを込め制作したシンボルロゴを刻印した。グッズの原材料にはバイオマスプラや使用済みペットボトルを活用し、多様な世代へのメッセージ性を高めた。 ・子供、障害者、高齢者など多様な世代が利用できる生活に身近なものをノベルティグッズとし、誰でも使いやすいグッズにした。海洋プラスチックゴミの削減やエシカル消費など環境保護への取組みを踏まえ、グッズは記念事業の参加者などに配布し、環境に配慮した持続可能なまちづくりを市全体で取り組むことができた。 ・記念事業の参加者にエコバック等を配布することにより、市のごみの減量化などを図った。
③ 市勢要覧作成事業	○	・桶川市の歴史や文化、持続可能な未来（SDGs）に向けた願いを市勢要覧として編集し、記念式典の出席者などに配布及び市ホームページに掲載することにより、多くの世代にメッセージ性のある効果的な手段であり、シビックプライドの醸成に効果があった。
④ 持続可能なまちづくりメッセージ発信事業	○	・新聞媒体を用いたメッセージの発信は行えなかったが、持続可能なまちづくりに関して民間企業との連携協定を結び、広報やホームページで広く情報発信することにより関係人口の創出やシビックプライドの醸成を図った。

【成果検証の総括・改善策の検討】

実施事業について 十分に成果が認められた点	漫画まちづくり冊子作成事業で子供にもSDGsを知ってもらえる機会を設けることができ、また持続可能なまちづくりに関して民間企業との連携協定を結ぶことで、市制施行50周年を契機とした持続可能なまちづくり事業を推進することが出来た。
実施事業について 成果が不十分である点	成果指標である「市民1人、1日当たりのごみの排出量」が、コロナ禍における生活の変化などの要因もあり、従前に比べ増加に転じた。
成果検証を踏まえた 今後の改善策	コロナ禍の影響もあり、当初想定していた本事業の効果が出なかった部分もあったが、本事業だけに留まらず引き続き持続可能なまちづくりを推進していく。